

増殖溝

洋野町種市の海岸は遠浅の固い岩盤でできています。

種市漁港北側の浅瀬の岩盤を掘削し、総延長約4kmもの溝が造られています。
昭和50年(1975年)から、約10年間かけて造られたそうです。

最近では、ウニ牧場と呼んでいる人もいますが、当時の漁協組合長が、周囲で賛否の意見があげられる中、ヤマセや波浪により沖に出られる日が少ないこの地に必要だと事業を進めたそうです。



この溝を「増殖溝」と呼び、増殖溝の中は海水が絶えず流入し、また干潮時にも海水で満たされています。そのため、ウニのエサである海藻が育ち、それを食べてウニも大きく成長していきます。



ちなみに、この地域の岩盤は「種市層」と呼ばれ、約 8,500 万年前(白亜紀)に堆積してできた地層で、様々な海生生物の化石や、珪化木などの植物の化石を見ることができます。

種市うに栽培漁業センター

種市漁港から海沿いに南に進むと、「稚ウニ」を育てる種市うに栽培漁業センターが見えてきます。

関係者以外立入禁止なので、何かのイベントなどで見学させてもらえる時以外は残念ながら中に入ることとはできません。



いくつもの細長い水槽が並んでいることが確認できますが、この水槽の中で、数mmから数cmの大きさの稚ウニが育てられています。

ここで1年間育てられたウニは、沖に放流されます。

沖で大きく育ったウニは、今度は増殖溝に移殖され、そこで海藻をたっぷり食べて身を付け収穫されることとなります。

ひろの水産会館 ウニーク

種市うに栽培漁業センターの目の前にウニークがあります。

建物は船の形を模しているとか。

海産物やお土産の購入、食事もできますよ！

